



米国でさい帯血投与を受けた お子様のご家族からのメッセージ

さい帯血情報Vol.94にてご紹介しました、米国デューク大学で行われている拡大アクセス制度に参加されたご家族の声を頂きました。

参加されたご感想

まず一安心しました。我が子が生まれてからさい帯血投与をずっと願っていた私達夫婦はこの日をやっと迎えることができたという嬉しさで胸いっぱいでした。

渡米前はまだまだかという焦る気持ちの方が多く本当に待ち遠しかったのですが、その日はあっという間に来ました。

正直最初は心配なこともあり、きちんと無事投与できるのか、また泣く我が子に痛い思いや辛い思いばかりを経験させてしまっているのが心苦しい事、そんな思いが強いこともありました。

日本の病院とはシステムが異なり、初診扱いでも直接小児科へ行って受付を済ますことで想像していたよりもスムーズに事が進み、初めての場所でもわかりやすい施設ですぐに小児科も探すことができ、その場で安心しました。

またDuke大学のナースも渡米前はこまめにご連絡をくださり、一つ一つ慎重に進めてくださいました。

さい帯血投与から2ヶ月で足の動きが増え、自身で移動するようになったり、認識力も高まり、更に笑顔が見られるようになりました。さい帯血は3~6ヶ月以降から効果が現れると聞きましたが、今後更なる効果がどのように見られるのか期待しています。



▲ ご自身のさい帯血を投与



▲ デューク大学

このようなさい帯血投与が今後の効果的な治療に繋がることを願い、また我が子の結果が未来に繋がることを信じ、さい帯血投与は効果的な治療という証明ができれば幸いです。

熱心に対応してくださったドクターや、泣く我が子をあやしてくださったナース、こんなにも温かな多くの方々に見守られ協力して頂き、やって良かったなと心底思います。

本当に参加できてよかったです。ご協力してくださった方々、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

拡大アクセス制度(Expanded Access Protocol; EAP)とは、デューク大学で行われている臨床試験の選定基準に満たないお子さんに、自家(お子さん自身)あるいは他家(ごきょうだい)へさい帯血投与の機会を提供する制度です。18歳未満の、脳性麻痺、低酸素性脳症、脳卒中、水頭症、言語失行症、自閉症スペクトラム、その他の脳障害を持つお子さんが対象となります。ステムセル研究所は、当制度へ参加希望の方々のサポートをさせていただきます。